

# 『のうそん』誌が昨年終刊

## コロナの声綴って半世紀

### 日伯連帯研究所が寄贈呼びかけ

「世が知る間に、日本移民が遺した貴重な文化遺産を出来るだけ日本でも保存する必要性を感じています」と、日伯連帯研究所 ONG Trabras、東京都所在の加藤仁紀代表は、そうメールで胸中を綴ってきた。世を重なることに日本語を読める人がいなくなり、伯国内に点在する日本人移民が出版した書籍の多くが廃棄されることを危惧している。そこで第289号をもって昨年終刊した『のうそん』誌(発行日伯農村文化振興会、永田久主宰)を国会図書館に全巻納本すべく、未納本分の収集を呼びかけている。



編集部にある「のうそん」の冊子

『のうそん』は永田氏が1969年の6月にアリアンサ移住地からグアラリヨス市に引越したのを機に創刊。永田氏が91歳を超えて継続が難しくなったため、第289号をもって昨年終刊となっていた。そのうち、第

281、284、288号の提供協力を仰いでいる。同団体は日本で在日ブラジル人の労働支援や日伯間交流活動のほか、ブラジル日本移民が出版した本を保存するために国会図書館への納本

活動もしている。現在、国会図書館には第1号から280号が納本されており、そのうち33冊は同団体が納本した。280号以降の未納本分は伯国内で同団体の参加者である富田博義さんと永田久氏の連絡をとり、第282、283、285、286、287、289号の入手が出来ていない。富田さんと永田氏の手もとにも無記入困難のために広く協力をお願いした。早稲田大学OBでもある同氏によると、同大学も近年中南米の日本移民が遺した書籍の収集と保存に関心を持っているという。

加藤代表は「日本で国会図書館や大学図書館に参加した同連合会元会長で3世の弁護士デビッド・アラカワさん(65)は「事故は悲しく痛ましい出来事だったが、ハワイと日本、愛媛県とが絆を強めるきっかけも与えてくれた。この活動を通じてハワイの日系人団体も一つにまとまることのできる」と語った。

慰霊碑が建てられたのは02年。事故当時、ハワイ日系人連合協会の会長として3世のケネス・サイキさん(79)らが活動を始めた。その後、元各県人会や寺院関係者、学校など多くの団体が加わった。新型コロナウイルス

の感染拡大で、追悼式典で慰霊碑にレイを手向ける参列者(共向)

長だった3世のケネス・サイキさん(79)らが活動を始めた。その後、元各県人会や寺院関係者、学校など多くの団体が加わった。新型コロナウイルス

## 慰霊碑守るハワイ日系人ら

### 事故20年、「絆」の象徴に

【ホノルル共同】2001年に愛媛県立宇和島水産高校の練習船「えひめ丸」が米原潜に衝突され、事故で、ハワイ在住の日系人らが20年近くにわたり慰霊碑を守る活動を続けている。悲惨な事

故の記憶を今に伝えるモニュメントは、長い歳月を経てホノルルの日系人社団の絆を象徴的な存在にもなっている。現場の海域を約20キロ先に望むカアコ海浜公園。事故発生20年を

目前に控えた6日、朝早くから集まったハワイ沖繩連合会のメンバーが5人ずつに分かれ、慰霊碑を丁寧に水拭きしたり、周囲に散らばる落ち葉を拾い集めたりした後、犠牲者に黙とうをささげた。

追悼式典で慰霊碑にレイを手向ける参列者(共向)

元各県人会や寺院関係者、学校など多くの団体が加わった。新型コロナウイルス

の感染拡大で、追悼式典で慰霊碑にレイを手向ける参列者(共向)

長だった3世のケネス・サイキさん(79)らが活動を始めた。その後、元各県人会や寺院関係者、学校など多くの団体が加わった。新型コロナウイルス

の感染拡大で、追悼式典で慰霊碑にレイを手向ける参列者(共向)

**Vacinas contra Covid: imunização em massa já aponta queda de infecções e internações em Israel**

伯国で新型コロナウイルスの接種が始まって3週間余り。9日現在の接種者は、2度目の接種も済んだ5万人余りを含め、400万人を超えた。プタタン研究所のジマス、

「接種が始まって3週間余り。9日現在の接種者は、2度目の接種も済んだ5万人余りを含め、400万人を超えた。プタタン研究所のジマス、

**イスラエル並に迅速な予防接種を!**

3人で、接種前に感染したのか、抗体ができる前に接種したのかは不明だ。だが、早期に接種を始めた地域と接種者が多い地域の双方で60歳以上の感染者や入院患者が減り、ロックダウンだけでは

**富岡宏明さんを知りませんか?**

熊本市在住の浦田昌寛さんが、熊本市北区植木町からブラジルへ移住した富岡宏明さんに連絡をしたい件があるとのこと。富岡さんは現在80歳ぐら

**お知らせ**

日伯福祉協議会及びサングラス協会の日伯福祉協議会の変更に関するお知らせです。ご不明な点やお問い合わせは、誠に申し訳ございません。

**訂正**

2月10日付本面掲載された「オンライン文協文化まつり10日に各地の地域イベントを紹介」に誤りがあつた。文協「文化まつり」は

**ブラジル東京海上は安心と安全の提供を通じて、豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献します。**

**TOKIOMARINE SEGRADORA**  
NOSSA TRANSPARENCIA, SUA CONFIANCA

**BANCO SUMITOMO MITSUI BRASILEIRO S.A.**

**SMBC**

みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス 6% www.team-6.jp

**本紙アンケートに回答を! 購読期間や本をプレゼント 編集部へ3月20日必着**

2月2日から静岡県庁によるPR広告が始まった。県とブラジルの歴史的・人的な絆を見直して、関係をさらに強めようという独自の取り組みだ。静岡県人会はもとより、在日ブラジル人、県出身の偉人・平野運平など様々な話題が盛り込まれる予定。今月いっぱいこの広告は続く。

この取り組みに賛同する意味で、ニッケイ新聞は独自にアンケートを実施することにした。次の5問に回答してくれた人に、プレゼントを用意している。先着120人限定。ポ語回答も可。

《質問1》日本や静岡の何に興味がありますか。  
《質問2》日本や静岡にどんなイメージ・印象がありますか。  
《質問3》本紙配達に対する苦情や要望がありますか。  
《質問4》こんな日系社会記事が読みたいという希望がありますか。  
《質問5》こんなブラジル社会記事が読みたいという希望がありますか。

質問に回答した読者には、以下5種類のプレゼントから一つを進呈する。

- (1) 購読期間の2カ月間延長
- (2) 『空から見た美しき富士山』(静岡新聞社刊、2015年)
- (3) 『目で見るブラジル日本移民の百年』(ブラジル日本移民史料館・ブラジル日本移民百年記念協会百年史編集委員会編、2008年)
- (4) 『移民と日本人』(深沢正雪・ニッケイ新聞社編著、無明舎出版、2019年)
- (5) 『世界が称賛する国際派日本人』(伊勢雅臣著、育鵬社、2016年)

このプレゼントは品切れになる可能性があるため、希望順位を1、2、3と必ず書くこと。希望1位のもの品切れになった場合、2位のものを送付する。それも品切れになれば3位となる。書籍の送り先はブラジル国内のみ。PDF版やWeb版読者の場合は、ブラジル国内に書籍の送り先がある人で、銀行振込票で振り込んでいる人のみが対象となる。サイトでクレジットカード払いの読者は対象外なので注意。

次ページの質問票に回答を記入し、プレゼント(1)~(5)の前に希望順位を1、2、3と全て記入し、本紙編集部まで郵送、もしくはメールに書き写すか、質問票を写真に撮って添付して送信を。氏名および、郵送希望先の住所と電話番号をお忘れなく。郵送する場合は「読者アンケート係」宛てに3月20日までに必着のこと。Eメールで回答する場合は、redacao@nikkeyshimbun.jpまで。

**プレゼントされる本の数々**